



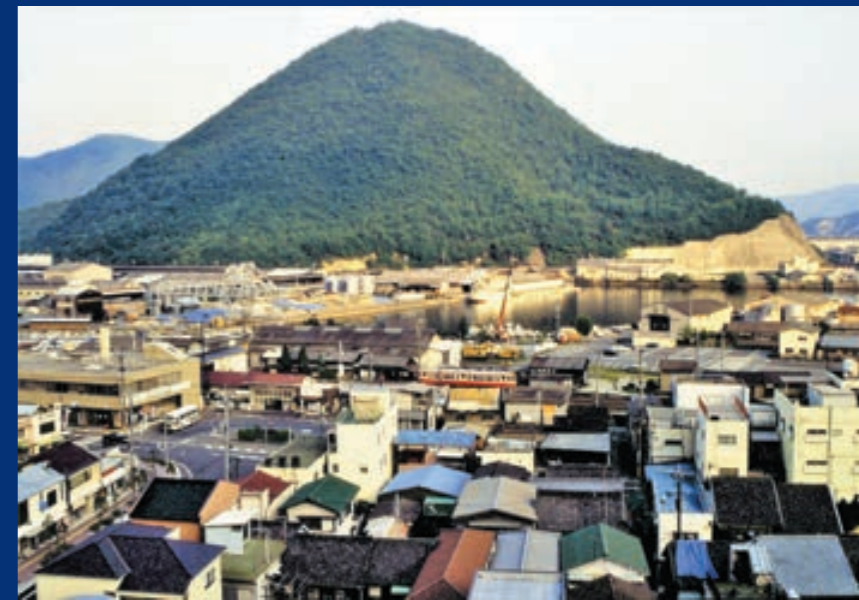
品川一高い煙突 岡山第2工場



本社応援団



岡山工場第4製造室の自動成形ライン



岡山・片上の街並み 資料提供:木下 耕二氏

HISTORY

1975 → 2009

不況と戦った、激動の35年



岡山工場協力会社昭和産業の前垂れ



2009年統合パーティー記念ケーキ



千種川河口から見る赤穂工場



岡山工場手打ち成形



品川グループソフトボール大会

創業から100周年を迎えた1975年(昭和50年)以降の50年間は、当社にとって決して平坦な道のりではありませんでした。とりわけ、1975～2009年の35年間は、激動する経済状況と戦ってきた時期と言っても良いでしょう。

1973年(昭和48年)に起こった第1次オイルショックは、高度経済成長にブレーキをかけただけでなく、日本の市場に急激な物価高をもたらしました。その後も、第2次オイルショック、プラザ合意を引き金とする円高不況、バブル経済の崩壊などにより、景気の低迷が続きました。

しかしその後、2000年代にかけて何度か景気持ち直しの動きがあり、日本国内の鉄鋼業界では、1972年(昭和47年)に1億トンほどであった年間粗鋼生産量は、2007年(平成19年)に1億2,000万トンの最高記録を打ち立てます。

ところが、2008年のリーマン・ショックを経て、景気は再び減速期に突入していきます。

そうした過酷な経済環境の中であって、粗鋼生産量の減少が続いた日本の鉄鋼業界は、世界市場を見据えた競争力維持のため、大きな業界再編へと動き出します。当社でも成長のターゲットを海外に定め、積極的な展開を図る戦略へとシフトしていきました。

次ページからは、創業100周年以降の当社の35年の事業の推移を、(1)1975年～(2)1985年～(3)2000年～の3つの時代に区切って紹介します。